

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800017		
法人名	株式会社 平安		
事業所名	グループホームききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505-2		
自己評価作成日	令和4年7月30日	評価結果市町村受理日	令和5年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190800017-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自分らしく自分のペースで生活ができる施設をスタッフはめざしています。環境の整備や暖かい雰囲気施設の施設づくりを行う事で利用者さまの尊厳を尊重し穏やかで安全、安心に快適に過ごしていただき、自分たちもここで生活したいと思えるような空間を作りだしていきます。
季節感を感じていただけるようなイベントやご家族様や地域のイベント参加など無理のないように募り地域に密着した施設をこれからも目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年新たな目標を立てており、今年は「日々前進」である。感染対策をした上で外出支援や行事を開催したり、行政と連携を図りながら、新たに住民参加型の介護予防サロンを始めている。また、SNSを活用し利用者の様子を写真や動画で配信、Web面会等も行っている。睡眠センサーの導入により、脈や離床時間をデータ化し質の良い睡眠ができるよう支援している。看護師や理学療法士の資格を有する職員がおり、体調管理やリハビリ、薬剤師による薬の管理指導も始め、利用者や家族の安心に繋げている。管理者は職員がやりがいを持ってよう職場環境を整え、利用者がいきいきと生活できる支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念の他に今年の目標を掲げ職員一同で取り組んでいます。定期的なミーティングを実施し理念に沿った行動、サービスの提供ができるように心がけています。	事業所理念は職員がいつでも確認できるよう玄関に掲示し、ホームページにも掲載している。理念とは別に目標を立て、今年はリスク管理を行いながら前に進んでいけるよう「日々前進」である。職員はコロナ禍においても、新たな取り組みやサービス向上を目指し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ではありますが可能な範囲でイベント等を開催し交流を図っています。感染状況を見て今後も外出や地域との関わりを増やしていきたいです。	今年度の新たな取り組みとして、地域住民の参加を募った「介護予防サロン」を開催している。感染予防対策をした上で、利用者とサロン参加者が、バーベキューやバイオリンのイベント等で交流を行っている。日常的にも、近隣住民から野菜や花の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内に講師を招き研修や意見交換の場も設けています。研修での学びや気づきを活かして職員の技術の向上も見られています。秋には併設施設2Fで認知症サポーター研修を開催予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面とオンラインを併用したハイブリット開催をしています。コロナ禍であってもどうしたら継続的に開催できるかを話し合い地域の方々との意見交換に取り組んでいます。	コロナ禍ではあるが、対面とオンラインを併用した運営推進会議を定期的に開催している。日頃の利用者の様子や新たに導入した睡眠センサー、サロン開催時の様子など、写真を取り入れて分かりやすく説明し、参加者と意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所健康介護課職員と定期的に面会や連絡を取り状況報告や情報共有を実施しています。	運営推進会議に市職員や地域包括支援センター職員の出席を得ている。新たな取り組みである「介護予防サロン」の相談及び理解を得ながら、市と協力関係を築いている。サロンでは、保健師とも連携を図り、住民と利用者との交流にもつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはミーティングなどで議題にあげて話し合い理解を深めたり、研修をおこなったりしています。利用者様の日常の行動や動きなどを職員間で共有し安全に過ごしてもらえるよう、定期的にサービスの見直しを行うよう努めています。	外部講師を招いて身体拘束に関する職員研修を行い、社員ミーティングの中でも、拘束について話し合っている。やむを得ず拘束が必要な利用者には、家族に説明をし同意を得ている。睡眠センサーの導入により、利用者の睡眠データがパソコンに送られ、睡眠の質や状態把握、転倒防止に役立っている。	身体拘束に関する職員研修や身体拘束について、社員ミーティングで話し合われているが、身体拘束等の適正化を図る委員会として検討がなされていない。今後、身体拘束適正化委員会の立ち上げと共に、会議の議事録及び報告書の整備に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待に関してもミーティング等で勉強し、日常より常に注意喚起し虐待の防止に努めている。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて日常生活支援や成年後見制度について学んでいる。利用者個々の尊厳を大切にできるように職員で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設入所前にケアマネージャ、フロアリーダーと面談を行い利用者、家族の不安や疑問点、要望等を伺い施設内や料金等の説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	弊社の公式LINEアカウントやインスタグラムなどのSNSサイトを開設し以前よりもご利用者さまとの繋がりを感じていただけているようになっています。ホームページを通じての情報発信も行っています。	利用者と家族の面会は、状況に応じて感染対策を行いながら、屋外での面会やLINEのビデオ通話等で実施している。書面での便りは廃止し、LINEやSNSを活用しながら事業所の活動や利用者の様子を伝えている。家族からの意見や要望は面会時や電話でも話を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回ミーティングやモニタリングを行い各職員が意見を述べ今問題になっていることなどの解決策を考え良いケアが出来るよう努めています	管理者は、職員の意見や相談をいつでも聴けるように努めており、良好な関係が築けている。職員は日頃から利用者の様子を細かく見ており、気付きやアイデアを、すぐに職員間で話し合い、改善につなげている。管理者は、職員が働きやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が仕事にやりがいを持って取り組めるよう人事考課制度や昇給制度、家庭環境に応じた働きやすいシフト作り、心身負担低減のための設備改修、福利厚生の実施、に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護未経験の職員でも安心して働けるための教育制度や月1回の介護研修(外部講師)、資格取得や法人外研修費の補助の制度を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインで他の施設の介護者と話し合える機会を設けたり、他施設見学の機会を設けている。勉強会案内など全職員に配信し平等に参加できる機会を与えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを提供する前にアセスメントを行い、本人の不安や要望などに聞き、安心して生活できる場所の提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にケアマネ、フロアリーダーと面談を行い、希望や心配事をしっかり把握しアセスメントを作成し情報の共有を行う事で家族の方の信頼を得られるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員は家族とコミュニケーションを取るようにして面会時や電話での会話の中でいま困っていることや希望されるサービス等を探し出し提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と向き合い、個性や今までの暮らしぶりなど聞き、自宅にいるような介護をいつも考え、その人らしい生き方をさせていただけるように支援しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会も徐々に緩和して行っていますので、家族の方に面会に来ていただくよう声掛けを行って行き疎遠にならないようにしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方の面会はまだまだ規制をかけていますが、関係を忘れないようこれからは少しずつでも声掛けし途切れないよう支援していきます	LINEの活用により、コロナ禍で会えない家族や孫の動画が利用者に届いている。事業所からも、利用者の普段の様子やイベントでの様子を配信している。コロナ禍にあっても、家族との関係が継続できるよう、様々な工夫をしながら支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんには好きなこと、興味のあることを行ってもらおうとしています、全員でレクを行ったり、ホットプレートでおやつを作ったりして楽しく過ごせれるよう考え対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了していても、家族より相談や連絡があった時は親身になり対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人をよく観察しその人に合った支援を皆で共有し安心して生活してもらえよう行っている	利用者同士の会話や職員とのふれあいの中で、個々のやりたい事や食べたい物など、思いの把握に努めている。本や新聞を読むのが好きな利用者、洗濯物畳みや自分の健康チェックをする利用者もあり、職員間で情報を共有しながら、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とコミュニケーションを取りながら今までの生活歴を聞いたり家族の方に聞いたりして多くの情報を集めサービス提供に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の一日の生活や行動の流れを記録に残し、職員全員が利用者様の今の現状が把握できるよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に職員同士が意見の交換を行っており、ケアについて再度検討を行う為、モニタリングを行う事で介護計画を立てたり、新しいアイデアや意見を出してサービス提供に役立てている	介護支援専門員を中心に職員と検討しながら、定期的にモニタリングを行い、利用者と家族の意見を反映させた介護計画を作成している。家族が面会や季節の衣替えに来訪した時に、介護計画について説明し同意を得ている。	介護計画作成前には、利用者や家族の意見や要望を聞いている。今後、家族と直接話し合えるサービス担当者会議が開催できれば、支援経過や結果について、家族もより一層の理解を深められると思われる。実現に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日朝礼・夕礼を開催し引継ぎを行う中でサービスの見直しを行う為、新たな気づきなどを共有するようし安心して一日過ごしてもらおうようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様全員、サービスの提供内容が違う事がある為、一人一人に寄り添いその人に少しでニーズに合ったサービスを提供できるよう取り組んでいます。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の受け入れは今では行えない状態ですが、利用者様が安心、安全にそのらしい生活が続けていけるよう支援したり、他の施設の職員が相談事や話し相手を行う事で生活にメリハリをつけ楽しんで過ごしてもらうよう努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の診察を受診し状態の把握をお願いしています、異常時の時は診察が適切に受けられるように協力して頂いていますので、本人や家族の方も安心して頂いています。	かかりつけ医の継続や協力医を選択できることを契約時に説明している。また、理学療法士2名が常駐しており、サービス内でのリハビリを実施している。4月からは、薬剤師による管理指導や飲み方の指導も行っており、利用者や家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で利用者様の状態の報告を定期的に看護師に行い、主治医と連携を持ちながらアドバイスをもらい適切な診療が受けられるよう日ごろから行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネが病院の相談員と連携を持ち定期的に連絡を取り、利用者様の今の状態把握に努め、退院後も安心して生活が出来るよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前より家族から終末期、看取り期に関する意向を伺い、事業所での支援の方法、また地域の医療機関や施設などでの支援も説明します。本人・家族の意向をスタッフに共有しチームでの支援に取り組んでいます。	契約時に重度化や終末期について説明している。状態の変化により、本人・家族、職員や医療関係者と共に今後の支援内容について話し合いを行っている。過去にも看取りの経験があり、利用者が心穏やかに最期が送れるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の看護師や家族への連絡マニュアルを作成し緊急時に備えています。また応急手当や救急要請時の対応などについて消防署に依頼し研修を開催していただく予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方を呼び避難訓練を定期的に行っています、通報や消火等なども実践で行い、いざという時に備えています。緊急連絡簿は全員に配布して速やかに連絡が取れるよう対応しています	避難訓練では消防署と連携し、通報、誘導、実際に消火器を使用した火災訓練を実践方式で行っている。訓練後は職員全員で消火器の設置場所の確認をしている。水害想定訓練では消防士から助言を受けている。災害時においての福祉避難所として、市と協定を結んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さまの生い立ちや昔からの習慣など人格や尊厳を大切にプライバシーを守るように日ごろから心がけている。	共に生活をしていく中で、馴れ合いにならないよう留意し、常に尊厳を守り、その人に合った呼び名で声かけをしている。職員は、様々な個別支援の際や、移動の声掛けをする時には、きちんと説明をし、寄り添いながら利用者一人ひとりを尊重した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の思いや希望を見つけ出し職員間で話し合い、希望に添えられるよう働きかけ、自己決定が出来るようになっています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活に合わせ無理なく、自分らしく自分のペースで生活が送れるように行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を着て頂いたり、希望される衣類を着て頂けるように支援しています。 希望があれば買い物に同行し自分で好みの衣類を選んでいただきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き取り、ホットプレートなどを利用し利用者様が調理に参加出来る献立を考え楽しく作業しながら、食事をして頂く機会を設けています	昼食と夕食の副食は法人が運営している配食サービスを利用し、朝食、ご飯、汁物は職員が作っている。おやつ作りは、利用者と一緒にするなど食事を楽しめるよう支援している。手伝いが好きな利用者が茶碗拭きを職員と一緒に行う事もあり、今後も継続できるよう支えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	信頼のおける配食業者がバランスの良い食事を提供していますが、時々利用者様の希望に答え職員がつくり提供したり、一緒につくり食べていただいたりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは自立の方は自分で行ってもらうよう見守りをし、出来ない方は職員が介助しながら口腔内の清潔の保持に努めています		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向け排泄回数や状態を確実に記録し、それを職員間で参考にしながら、タイミングを図り声掛けや誘導を行っています。	職員は利用者の排泄状況を把握し、声掛けや誘導を行っている。昼夜ともにトイレでの排泄を基本とし、一人で排泄ができる利用者には見守りを基本に、プライバシーに配慮しながらカーテンの外側で待つなど、利用者に合わせた排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリで体を動かしてもらったり、適量の水分を取ってもらったりして排便を促しています。また排便間隔や形状を記録し、各利用者様の状態によって主治医や薬剤師に相談し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、家で入浴されているように落ち着いて入浴できるように希望の時間や入浴剤を使用して楽しんでいただけよう支援しています。	利用者が安全に入浴できるよう、浴室にはリフトが設置されており、状態に合わせて支援している。着脱からドライヤーで髪を乾かすまで、一人の職員が介助を行っており、コミュニケーションを図りながら、利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠センサー（眠りスキャン）を導入し睡眠の質の向上に努めています。タブレットで睡眠の状態や心拍数の確認ができデータや数値で他職種と連携しながら睡眠に対してアプローチを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は薬剤師、看護師が行っており服薬は職員が行っています、名前、薬の間違いな無いように、職員同士のダブルチェックや本人に確認しながら誤薬が無い様対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本を読む方、テレビを見る方、職員の手伝いをしてくれる方というんな方がみえます、その人に合った役割で生き活きと生活が出来るよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦ではありますが、出来る限り利用者さまの想いに寄り添って出来ることから外出支援を行っています。喫茶店への外出やいちご狩り、伊自良湖へのドライブなどご家族様への声掛けもしながら支援しています。	新型コロナウイルス感染拡大状況に応じ、予防対策を講じた上で、いちご狩りやドライブへ出かけている。また、屋外で流しそうめんや鮎の塩焼きなどのイベントを行うなど、利用者を楽しませている。喫茶店や外出希望があれば家族の協力のもと、送迎サービスも行っている。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族の希望に沿って買い物支援や移動販売への買い物なども行っています。普段からお金を所持し管理することは難しいですが支払いの感覚やおつりの計算なども思い出しただきながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があれば対応しています。年賀状などは希望を聞いて対応しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフや利用者さまが作製した作品を壁に飾り季節感を感じていただけるように工夫しています。また各居室にナースコールや夜間帯は小さな常夜灯を点けて不快にならぬように安全な空間で生活していただいています。	居間の大きな窓から陽の光が注ぎ、天井は高く開放感がある。テレビやソファ、テーブルが使いやすい配置され、寛げるスペースとなっている。コロナ感染予防対策として、空気清浄機、加湿器、簡易陰圧装置(2居室)を設置している。壁には共同作品が飾られ、玄関には花が植えられており、季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活といえども一人一人の習慣や想いを大切に個人ケアに努めるようにしています。また利用者さま同士のコミュニケーションも自由にとっていただけるような環境作りを心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も広く希望があれば家族の方も泊まれるスペースがあります。昔から大切にされている物や馴染みの物、母の日のプレゼントなども飾り、落ち着いた心地よく過ごせるように工夫しています。	居室の入り口には木製の表札を掲げ、自分の居室と分かりやすい工夫をしている。広くすっきりとした居室内にはベッドと箆笥が備え付けであり、利用者は使い慣れた物を持ち込み、自分好みの配置で過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりは設置しています、車椅子や歩行器などスムーズに移動できる広さを確保していますので、利用者様同士が接触しないよう安全に配慮し自立生活が継続出来るように工夫しています。		